

切なのが、事業継続計画（BCP）を策定すること。BCPは企業などの組織が迅速に重要な機能を回復するための事前計画。優先して復活すべき

業務をあらかじめ設定し、代替オフィスの確保や非常呼集、緊急連絡、担当者の責務・序列、緊急持ち出し、重要記録の保全やバックアップの方

法などを決めておくことが求められる。山崎氏は最後に、「東京圏は世界で一番自然災害リスクが高い地域。大きな被害と混乱が発生する

ことが懸念される。命を守る耐震化を進めるとともに、BCPなど事前の備えを欠かさないことが重要だ」と述べた。

クシヨップは1回20分程度で体験できるようになっており、子どもたちはさまざまなワークシヨップを通して感性を自由に表現する楽しさを見いだしたイベントになった。

こどもワークシヨップ開催のためのデジタル知財プロジェクト

デジタル知財プロジェクト

6月30日と7月1日の2日間、慶應義塾大学三田キャンパス西校舎において、「こどものためのワークシヨップの博览会 ワークシヨップコレクション2007 in 慶

應義塾」（主催・特定非営利活動法人CANVAS、慶應義塾大学DMC機構）が開催され、2日間で約6500人の親子がさまざまなワークシヨップに参加した。また、同

キャンパスの東館では慶應義塾大学DMC機構によるデジタル知財プロジェクト発足に伴ったシンポジウムも開催され、本格的なデジタル時代を迎えた日本でコンテンツを

どのように創造、流通させていくのか、環境整備も含めた取り組みについての研究がスタートした。

「こどものためのワークシヨップの博览会」では計34のワークシヨップが行われ、開場の11時には約500人の親子が行列を作り入場。校舎内の



簡単なコンピュータープログラムを使ってパソコン画面上の美しい模様作り挑戦する親子

各教室に設置されたワークシヨップでは、簡単なコンピュータープログラムを学びながら、パソコンの画面にさまざまな色、形の模様を規則的に動かすことで幾何学模様

の美しいパソコン画面作品を作ったり、ボレロの音楽に合わせて15コマの写真を組み合わせるアニメ制作の基本を体験できるワークシヨップなど、最新のデジタル機器を使った創作に挑戦した。また、身近にあるさまざまな素材を自由に使って自分の気持ちを画用紙に表現する造形作家との創作体験や、体に備わった知られざる身体能力を体験するアナログ的なワークシヨップも子どもたちに好評を博した。各ワー

一方、同時開催されたデジタル知財プロジェクト（DIPP）のキックオフシンポジウムは同キャンパスの東館で行われ、慶應義塾大学DMC機構教授の中村伊知哉氏、慶應義塾大学常任理事の村井純氏がDIPPの概要、趣旨を説明。パネルディスカッションでは「コンテンツ取引市場」「ユビキタス特区」について、各界を代表するパネリストがデジタル時代の知的財産・著作権に関する意見交換を行い、今後の研究テーマについても話し合われた。今後も慶應義塾大学DMC機構によるワークシヨップ、研究会は定期的開催されていく。

(H)